

パソコン自作までへの道

--- 中西先生を偲ぶ ---

Road Until Making by Oneself Personal Computer

渡 辺 源次郎

Genjiro WATANABE*

出会い

中西先生をはじめて知ったのは、約5年前の初夏の一日、彼が当時勤めていた流通科学大学に「人買い」あるいは「面接」の役目で神戸へ行ったときである。彼があまりにも熱心に福祉大へ行って医療経済などの経済学を深めたいというので、偏屈な私は「よく考えたほうがいいですよ」とその熱心さに水をさすことをいって、同行の事務局のMさんにいやな顔をされた。その頃の私は実証的な経済学の研究に福祉大が必ずしも優れた環境であるとは思えなかったから。しかし彼は熱心で、その冬いただいた年始状にもその意気込みが書かれていた。

校庭に桜花がはらはらと散る頃、彼はあの太目の体躯をゆすりながら文字通り春風駘蕩として福祉大へ赴任してきた。彼の活躍は目覚しく、時にはゼミ生を除名にしたとの噂を聞き、温厚な彼の中にそんな激しさがあるのかと驚いたりした。その後、医療経済の研究などで彼の希望と抱負がどのくらい満足されたか、は分からない。聞くのは照れくさかったし、聞くようなこととは思えなかったから。時々行き合うときなぜか近寄って行って共通の話題であるパソコンの話などはしたが、研究の話にはならなかった。私に何か大学行政の仕事につくようにと、少し私には耳の痛いことをいったりした。しかし彼はあまりにも忙しすぎた。福祉大へきた後も流通科学大学にも講師として行ってたし、その前の勤め先の医療経済研究所の仕事もしていたし、すぐ大学の教務の役職につく羽目となった。

そのうち彼の変調にふとしたことで気がついた。教員控え室の横にある彼の教員ボックスが書類で溢れ出しているのを目にすると、いやなものを見たような気がした。彼はそんなに忙しすぎるのか。新学年が始まってまもなく突然訃報を聞いたときは驚きのあまり言葉がなかった。彼の死はあまりにも痛ましい。「偶然是によく観察すれば必然の積み重ねである」という言葉がある。「他山の石」とはとても思えない心境である。

* Professor, Faculty of Economics, Nihon Fukushi University

彼の研究テーマは医療経済で医療の生産性分析を扱ったものがおおい。このテーマについては、医療生産物の特定化の困難さがあり、そのうちゆっくり彼の意見を聞きたいと思っていたが、それも不可能なこととなってしまった。しかし公的部門あるいは公共物の生産性分析はそのアウトプットがつかみにくい理由から敬遠されるべきでなく、むしろそれゆえにこそわれわれ経済分析を職としているものは敢然として立ち向かわねばならないといえよう。彼の死は私にそんなことを考えさせる。

研究室のパソコンは安定性が第一

彼と私はパソコンを愛好する点で共通点をもっていた。彼とパソコンの話での一致点は、大学の研究室のパソコンは安定性が第一であるということだった。これは多分彼も随分過去に痛い目にあっているからであろう。福祉大に来てからもある日、モニターが真っ黒なので今日業者を呼んでいるところだといったりした。私もこの点では幾多の同様な経験をもっていたので彼がいていた「安定性第一」はその後ともすればパソコンの箱を開けていじってみたくなる時、念仏として唱えることも多かった。しかし人生は皮肉である。あれだけパソコンの世界で安定性をモットウとしていた彼が、日常生活を不安定性の中で生きねばならなかったのだから。

大学というところで快適な生活を営む条件はいくつかあろうが、その一つにパソコンが正常に動いていることがあげられる。通常のワープロとしてワードを使った資料作りやエクセルを使っでの計算業務、そしてメールのやりとり、その他自分の場合は授業科目としての経済経営情報演習を受け持っていることや自分とゼミのホームページの管理など朝から晩までパソコンのやっかいになっている。しかしこの近代兵器は、常に順調とはいかず、しばしば故障するものである。大学では教授とは名ばかりで、社長兼小使だから全てのことを自分でやらなければならない。どこの大学にも情報センターという組織はあるが、あまりあてにはならない(?)。そこでパソコンが故障すると、まずメーカーに電話するのだが、これが簡単につながったためしがない。1時間も待たされてようやくつながっても親切な対応はまれで、多くは極めていいかげんな受け答えである。頭にきて喧嘩して電話を切ってしまうことも多い。そのようなことが繰り返されると、自然と自力救済の道をとぼと歩み始めることになる。はじめのうちはハード面は怖いので、ソフト面が中心だが、そのうちパソコンの中をあけてみてこわごわいじりだすこととなる。メモリー、ハードデスクの拡張に始まってCPU、マザーボードの交換に進むと、もう自作の道しかない。

自作への道

自作する前のメインマシンは3年前に購入したゲートウェイのGP6 - 350 でスペックはCPUがペンティアム 2 の 350MHZ, メモリーが 192MB (当初の 64MB から拡張), ハードディスクが 53GB (当初の 8GB から拡張) で, DVD と CD - RW (当初は CD - ROM のみ) を装備していた。つまり CPU 以外はすべて拡張してしまったことになる。OS も購入時はウィンドウズ 95 だったがその後ウィンドウズ 98, ME とアップグレードした。このくらいのスペックでもワード, エクセル中心の日常業務には全く不足を感じないのだが, ギガマシン全盛の世になってみると, 何か自分だけが取り残されたようで面白くない。これ以上の拡張は CPU がネックとなり不可能だ。そこでいろいろパワーアップの方法を模索することとなった。

1つの案は, メーカー製, あるいは通信販売のギガマシンの完成品の購入だが, 通販でも最近の PC パーツの急激な下落傾向にはついていけず, つまり相当割高だし, メーカー製は技術的に陳腐でかつ値段が高い。例えば, 256 メガバイトのメモリーの秋葉原価格 (ノーブランド) は 5000 円を切っているが, 通販価格は倍以上である。勿論, そのことによるリスクも十分考慮しなければならないが。それより何より自作の誘惑が強すぎた。毎週, 秋葉原を歩かなければ落ち着けない身にとって「俺にもできないはずがない」というのが正直な気持ちだ。何せ, 秋葉原を歩く男の3分の2は自作族なのだから。しかしうちの糟糠の妻にいわせると「できる人とできない人がいる」とのことだ。「よし! 細工は流々仕上げを御覧じろだ」。



(自作機. 右下にファン, 上に温度計をつけた。)

自作作業は慎重かつ大胆でなければいけない。また、エコノミストの端くれとして最少の費用をもって最大の効果を発揮させなければならない。作業の現場は大学の研究室だが、部品の調達には行きつけの秋葉原だ。かさばるケースは「雨の日サービス」を使って送料無料で大学へ送ってもらった。CPUは安定感を重視してペンティアム3の866MHZにした。1GHZも魅力的だが866MHZのほうがだいぶ安い。その他の部品の調達状況は表の通りである。総費用は71,500円となった。自作での難関は、一つはCPUの取り付けでCPUファンのパネがいわれているように硬く大変だった。もう一つはスイッチ類のコードの取り付けで、これも分かりにくい。このほか、OSのインストールと周辺機器のドライバーの入れ直しがいわれるように厄介であった。しかし全体的には「案ずるよりも産むが易し」であった。傑作なのはようやく出来上がったので、大学の生協の食堂で食事をとって研究室に帰ってみると、パソコンの箱の中からピーポーピーポーとサイレンが鳴っていたことだ。いわゆる「熱暴走」だ。これは低すぎる温度のデフォルトを修正することでひとまず収まった。また後日、パソコンの箱の中の温度を下げるためファンをつけると同時に温度計をつけることにした。しかし熱対策には今後悩まされつづけられるだろう。

C P U	ペンティアム3 866MHZ	21,300
マザーボード	AOPEN AX3S PRO	13,800
メモリー	256MB	4,800
H D D	IBM 45GB	14,000
ビデオカード	GEFORCE2 MX	8,900
サウンドカード	On Bord	
ケース	AOPEN	8,700
D V D	流用	
C D - R W	流用 (12倍速)	

(平成13年5月)

シンプル・イズ・ベスト

ところでパソコンを使用していて一番悩ましいことは、時にフリーズすることと終了時に正常にシャットダウンしないことである。最近のパソコンはCPU、メモリー、ハードディスクは驚異的にグレードアップしているので、いわゆる力不足で悩むことはまずない。

しかしそのようにアップグレードすれば、あの青い色のスキャンデスクをとまなうフリーズやシャットダウンの失敗などは起こらないかといえば決してそんなことはないといえよう。パソコンのグレードアップとそれらは別物のようである。物の本によればフリーズするのは基本的にはリソース不足からくる。アップグレードしてもリソースとやらは増えるわけではない。専門家に言わせると、ウィンドウズにフリーズやシャットダウンしにくいのはつきもので、むしろ常態と

思ったほうがよいとのことだ。

したがって単にフリーズをさせたくないなら、アップグレードなどするより、使い方を工夫した方がよさそうだ。つまりシンプルに使うということに尽きるだろう。余分なソフトはできるだけいれず、立ち上げているソフトも1つだけ、ワードのときはワードだけ、エクセルのときはエクセルだけとする。また、頻繁に保存すること、リソース回復のため時々再起動しながら使うことだろう。しかし時々再起動するにあたっては、うちの大学のランは繋がる速度がやたらに遅いのがネックだ。これはホームページ入り口にある大学マークの画像がやたらに重すぎるからだろう(注)。(最後は八つ当たりとなった)。

中西先生の追悼記が自作パソコンの近況報告になってしまった。あらためて心からご冥福を祈るしだいである。

(平成13年7月記)

(注) その後、解消したようである。